

2013 年度 事業報告
(2013 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

1. 図書資料関係

(1) 主な寄贈 <別掲>

(2) 利用状況

	開館	閲覧	展示	複写	写真
4 月	20 (19) 日	115 (120) 人	241 (262) 人	2,627 (3,512) 枚	88 (225) 枚
5 月	22 (22) 日	163 (167) 人	577 (448) 人	2,749 (3,942) 枚	228 (91) 枚
6 月	15 (16) 日	119 (147) 人	376 (320) 人	2,838 (2,536) 枚	273 (308) 枚
7 月	21 (20) 日	145 (130) 人	264 (169) 人	3,383 (2,894) 枚	133 (86) 枚
8 月	21 (22) 日	200 (203) 人	266 (256) 人	4,073 (4,542) 枚	144 (69) 枚
9 月	19 (20) 日	194 (173) 人	379 (195) 人	4,820 (3,104) 枚	156 (212) 枚
10 月	22 (21) 日	151 (155) 人	420 (398) 人	3,254 (2,959) 枚	217 (164) 枚
11 月	21 (21) 日	182 (173) 人	685 (374) 人	3,995 (3,517) 枚	173 (112) 枚
12 月	18 (18) 日	130 (183) 人	208 (236) 人	2,902 (2,476) 枚	121 (120) 枚
1 月	18 (18) 日	121 (126) 人	226 (253) 人	2,143 (3,507) 枚	145 (172) 枚
2 月	14 (14) 日	99 (96) 人	163 (191) 人	2,517 (3,716) 枚	94 (134) 枚
3 月	20 (21) 日	141 (159) 人	543 (336) 人	2,771 (3,967) 枚	101 (123) 枚
合計	231 (232) 日	1,760 (1,832) 人	4,348 (3,438) 人	29,061 (40,672) 枚	1,873 (1,816) 枚

() 内は前年同月

分館 4～3 月 開館 21 日、入館 13 人 (うち閲覧 1 人)、複写 0 枚

(2 月 15 日は荒天のため分館は臨時休館)

*昨年度から来館学生の資料複写料金割引を実施。

4 月 : 13 件 436 枚、5 月 : 36 件 414 枚、6 月 : 23 件 572 枚、7 月 : 17 件 377 枚、
8 月 : 32 件 839 枚、9 月 : 28 件 1,168 枚、10 月 : 41 件 794 枚、11 月 : 57 件 1,949 枚、
12 月 : 44 件 1,117 枚、1 月 : 20 件 347 枚、2 月 : 14 件 584 枚、3 月 : 23 件 517 枚

*今年度 (6 月 1 日) から視聴覚資料の閲覧を設置、石橋財団「声のライブラリー」コレクションDVDの閲覧を開始 (同財団助成事業)

(3) 図書資料委員会

- ・ 5 月 11 日、花崎育代委員による話題提供 (大岡昇平の自筆資料を調査して)、このほか文学館資料公開についてなど意見交換。出席 11 名。
- ・ 11 月 27 日、藤田三男氏の話聞く会。出席 11 名

(4) 特別整理

今年度前期特別整理期間 (6/11～15) に、図書・雑誌書庫の書架調整・整備作業を行った。
後期特別整理期間 (2/11～15) に、着物などの資料虫干し、日本文芸家協会寄贈同人誌仕分け作業を行った。

(5) 出品等協力 <別掲>

2. 展覧会

- (1) 春季展示 4月6日～6月8日 (44日間、1,040人)
企画展「花々の詩歌」展 (監修：中村稔)
川端康成記念室＝「川端と鎌倉」「作家の空間」を併設。
- (2) 秋季展示 9月28日～11月23日 (40日間、1,113人)
特別展「新収蔵資料展」(編集：池内輝雄)
川端康成記念室＝「モダニズムと浅草」(編集：和田博文)を併設。
- (3) 通常展 (レプリカ、複製版、写真などによる)
「作家の手稿Ⅰ」6月22日～8月10日 (34日間、606人)
「作家の手稿Ⅱ」11月30日～3月29日 (71日間、1,168人＝(4)を含む)
- (4) 全国文学館協議会共同展示「3.11 文学館からのメッセージ」(監修：中村稔)
3月1日～29日 (20日間、543人) / 宇多喜代子、浦河奈々、岡井隆、岡野弘彦、黒田杏子、栗木京子、小池昌代、菅原和子、高木佳子、高野ムツオ、高橋順子、照井翠、中村稔、長谷川權、米川千嘉子の各氏が展覧会のために新たに揮毫した作品を展示。
- (5) 2014年度春季展示 (4月5日～6月14日) の準備
企画展「青春の詩歌」展 (監修：中村稔)
所蔵資料に加え、荒川洋治、角川春樹、栗木京子、黒田杏子、小島ゆかり、坂井修一、新川和江、高橋順子、坪内稔典、中村稔、馬場あき子、米川千嘉子の各氏が展覧会のために新たに揮毫した作品、中村稔氏寄贈の石原八束、大岡昇平、大西民子、金子兜太、沢木欣一、塚本邦雄、永田耕衣、三好達治の作品、加藤穂高氏寄贈の加藤楸邨の作品、中村稔氏寄託の与謝野晶子、斎藤茂吉、石田波郷、安東次男の作品を展示。
川端康成記念室＝「川端康成の四季と死の美学」(編集：坂井セシル)。
- (6) 企画展示の貸出し
 - ・新潮社記念文学館「樋口一葉 その文学と生涯」展 (4月20日～5月26日)
 - ・土屋文明記念文学館「芥川龍之介の生涯—あまりに人間的な」(10月5日～12月1日)
- (7) 展示協力 「凜として立つ—佐多稲子の生と文学 没後15年」展
(佐多稲子研究会・婦人民主クラブ共催、当館協力) 8月20日～9月21日 (24日間、775人)
婦人民主クラブ主催により8月24日に記念講演会、9月13日にトークイベントを開催

3. 講座・講演会

- (1) 文学館へ行こう！
春 第1回 4月6日 講師：中島国彦 参加者12名
第2回 4月27日 講師：中島国彦 // 11名
秋 第1回 10月5日 講師：中島国彦 // 12名
第2回 11月23日 講師：紅野謙介 // 13名
- (2) 資料は語る 2013年度「資料で読む＜東京文学誌＞」
第1回 4月20日 小林幸夫：青春の諸相—根津・下谷 森鷗外と高村光太郎 受講43人
第2回 5月18日 石原千秋：電車が作る物語—田山花袋と夏目漱石 // 56人

- 第3回 6月22日 持田叙子：女性たちの東京—永井荷風と泉鏡花 // 42人
 第4回 9月21日 宮内淳子：モダンな盛り場—浅草 川端康成・堀辰雄など // 32人
 第5回 10月19日 武藤康史：震災と復興—銀座
 水上瀧太郎・久保田万太郎・里見弴など // 29人
 第6回 11月16日 松本侑子：太宰治—中央線時代の文学と恋
 甲府の石原美知子～御茶ノ水の山崎富栄 // 52人

(3) 声のライブラリー

第73回 5月11日 (この回から撮影業者をアートワークスに変更)

朗読：植木雅俊『梵漢和対照・現代語訳法華経』、大塚ひかり『ブス論』

司会：伊藤比呂美 参加者 57人

第74回 9月14日

朗読：津村記久子「ブラックホール」、富岡幸一郎『使徒的人間カール・バルト』

司会：佐藤洋二郎 参加者 27人

第75回 11月9日

朗読：文月悠光『屋根よりも深々と』他より、磯崎憲一郎『往古来近』より

司会：小池昌代 参加者 33人

第76回 2月8日

朗読：絲山秋子「ニイタカヤマノボレ」、阿部日奈子「朽ちなむ名こそ」他

司会：伊藤比呂美 参加者 44人

(4) 第50回夏の文学教室

「時代にみる文学」(読売新聞社後援、7/29～8/3、有楽町・よみうりホール)

＜プログラム 別掲＞

講師 18名 聴講者 3,644人 (昨年 3,775人、一昨年 2,961人)

記念小冊子『文学を語る、文学が語る「夏の文学教室」の五〇年』を刊行 (A4判 28ページ、1000円)

6月5日、読売新聞東京本社・福士千恵子文化部長、杉山弘文化関連事業事務局長来館、坂上弘理事長、中島国彦専務理事と会談、7月5日同紙夕刊に広告掲載。

第23回から引き続きポスター、チラシなどの印刷物について小学館の協力をいただいた。八重洲ブックセンターとオリオン書房で関連ブックフェア開催。

(5) 文学館演習—日本近代文学資料の探索と処理 (8月27日～31日)

講師：坂上弘、十川信介、池内輝雄、東郷克美、紅野謙介、日高昭二、宗像和重、金子明雄、安藤宏、土屋忍、十重田裕一、中島国彦、事務局職員

参加者：20大学ほか36名 (大学院生12名、学部学生16名、一般8名)

単位 (2単位) 取得希望16名 (近代文学2名、博物館実習14名)

4. 刊行物

(1) 「文学者の手紙」(館編、博文館新社発行、「日本近代文学館資料叢書」第Ⅱ期)

第8回配本別巻『写真アルバム』(編集翻刻・池内輝雄、紅野敏郎、曾根博義、十川信介)

の準備（本文校了済、博文館新社で製作進行中）。

- (2) 紀要「日本近代文学館年誌—資料探索」第9号 2014年3月20日刊行
編集委員会4月6日（山崎一穎、江種満子、中島国彦、松村友視）／エッセイ：相澤直樹、阿木津英、今橋映子、来嶋靖生、与那覇恵子／論考：尾形明子、木股知史、十川信介、山崎一穎、吉川豊子／資料紹介：佐佐木信綱宛書簡片山廣子書簡
- (3) 『花々の詩歌』2013年4月20日刊行
（当館編、青土社発行、A5判176ページ、2,500部、税込1,995円）
- (4) DVD版『日本近代文学館所蔵 太宰治直筆原稿集』2014年2月1日刊行
オンライン版『同 太宰治自筆資料集』2014年3月31日配信開始
（当館編集・発行、編集委員：中島国彦・紅野謙介・安藤宏、雄松堂書店製作・発売）
- * 『近代文学草稿原稿研究事典』については記念事業の項目に記載。

5. 運営審議会

- ・6月8日、2013年度運営審議会開催、出席者11名：安藤元雄、出野直子（新田満夫氏代理）、今村忠純、桶谷秀昭、川村湊、高橋靖典、中川成美、長谷川啓、山田有策、林淑美、渡邊澄子の各氏。
- ・同日の評議員会で栗原敦、林淑美氏が評議員に選任されたため、運営審議会委員を退任した。また同日の理事会で新たに同委員に選任された12氏のうち、石川巧、伊藤一郎、大塚常樹、曾根博義、高橋修、高橋博史、坪井秀人、浜田雄介、三浦雅士、吉田昌志の10氏が就任を承諾した。
- ・11月22日、西澤尚昭氏（学研パブリッシング）の後任に山本尚幸氏、12月7日、鈴木昭伯氏（文化出版局）の後任に児島幹規氏が就任を承諾。
- ・3月25日、久保忠夫氏から辞任願い（ご高齢のため）。

6. 全国文学館協議会

- ・6月14日、幹事会、総務情報部会世話人会、2013年度総会、懇親会
総会参加 44館・団体61名、オブザーバー1館1名。
2014年3月、第2回共同展示「文学と天災地変」を開催することが承認された。
- ・新宿区立林芙美子記念館・株式会社丹青社が入会、海音寺潮五郎記念館が退会、会員は99館・3団体となった。
- ・会報第56号（6/14）、第57号（10/15）、第58号（1/31）を発行
- ・増補改訂版『全国文学館ガイド』（全国文学館協議会編、2013年1月小学館刊）増刷
- ・11月1日、総務情報部会を開催（於高知県立文学館）、出席＝26館38名。
- ・3月14日、総務に関する共同討議を開催（於日本近代文学館）、出席＝12館17名。
- ・3月31日、紀要第7号を発行。

7. 広報

4月1日、館ホームページの刷新公開。9月17日、ミュージアムグッズのウェブ販売開始。

2月4日、Twitter 開始。

館報「日本近代文学館」253号(5/15)、254号(7/15)、255号(9/15)、256号(11/15)、257号(1/1)、258号(3/15)を発行。

8. 創立50周年・開館45周年記念事業

- (1) 『近代文学草稿原稿研究事典』（館編、八木書店刊行、2014年3月刊行予定）刊行準備
5月末、原稿執筆依頼を開始（9月末締切り）。
- (2) 川端康成展（パリ日本文化会館と共催、2014年9月開催予定）
川端康成記念室で4月6日～6月8日（第3部「作家の空間」、第4部「川端と鎌倉」）、9月28日～11月23日（第2部「モダニズムと浅草」）、試行展示を行った。
5月17日、坂井セシル編集委員、竹内佐和子パリ日本文化会館館長、牧瀬浩一氏（9月より同館展示総括責任者）、5月24日、竹内佐和子館長、中島国彦専務理事、事務局（信國・富樫）打合せ。展示と講演の概要、費用分担について協議。
多和田葉子氏に講演会講師依頼（内諾）、運搬費見積りを複数社に依頼。
11月28日、パリ日本文化会館から地上階・地下階を会場とする場合の予算案を提示。
12月21日、パリ日本文化会館から地上階のみに規模を縮小する場合の予算案を提示。
12月25日、パリ日本文化会館展示総括責任者の牧瀬浩一氏が来館、規模を縮小した展示案について、坂井セシル編集委員、事務局（信國・富樫）と協議した。
1月10日、坂井セシル、和田博文編集委員と事務局（信國・富樫）で協議、展示内容・構成はできる限り変更せず、経費を削減した展示案・予算案をパリ日本文化会館に提案。
1月31日、パリ日本文化会館から国際交流基金に予算申請（縮小予算＝154,000ユーロ）。
3月27日、パリ日本文化会館の予算の決定通知（16,000ユーロ）。
4月9日、石橋財団の助成決定通知（120万円）。
- (3) 展示室改修計画 6月理事会で紅野謙介理事を担当理事に選任、実施計画案（別紙）を検討。
12月21日、第1回検討委員会：理事長、池内輝雄、中島国彦理事、事務局（大木、徳永、吉原、富樫）。スケジュールと仕様を検討。
2月1日、第2回検討委員会：池内輝雄、紅野謙介、中島国彦理事、事務局（大木、徳永、吉原、富樫）。概要・方針を確認。参考見積りとプランを提示した2社の案を比較検討。
3月8日、理事会で、実施時期を2015年冬～春に前倒しすること、委託業者の選定を検討委員会に一任、結果を6月理事会で報告することが了承された。
3月19日、プレゼンテーション：池内輝雄、紅野謙介、中島国彦理事、事務局（大木、徳永、吉原、富樫）。（3月4日、1社が参加を辞退、委託業者に東京スタジオを選定）。

9. その他

- ・4月2日、小川桃復職（2009.4採用、2011.3退職）。
- ・4月8日、保有債券の一部を入れ換え（スウェーデン輸出信用銀行債6,000万円が円安により期限前償還になったため、ソシエテ・ジェネラル社債に買換え）。
- ・4月30日、石橋財団から2013年度寄付助成決定通知（「声のライブラリー」製作費4回分190

- 万円、石橋財団「声のライブラリー」コレクションの公開費用 80 万円)。
- ・ 5 月 10 日、太宰治の青森中学・弘前高校在学中のノートなど (3 月 21 日寄贈) を、中島国彦図書資料委員長、安藤宏評議員の解説により、報道各社に発表。
 - ・ 5 月 20 日、電話交換機更新工事。
 - ・ 5 月 25 日、晶文社・太田泰弘社長など 3 名、『吉本隆明全集成』への協力要請に来館。
 - ・ 税理士帳簿類調査 2, 3 月分 (5 月 8 日)、2012 年度監事決算監査 (5 月 21 日) 異常なし
 - ・ 税理士帳簿類調査 2013 年度 4, 5 月分 (9 月 17 日)、6~8 月分 (10 月 2 日)、9~10 月分 (11 月 27 日)、11~1 月分 (3 月 5 日) 異常なし <報告書回覧>
- なお、顧問税理士の木村敏夫氏が 6 月 23 日に逝去したため、後任の選任について検討の結果、引続き木村法律会計事務所 (木村文幸弁護士兼税理士) に依頼することとした。
- ・ 6 月 8 日、保有債券の一部を入れ換え (ロイヤルバンク・オブ・スコットランド債 1 億円が円安により期限前償還になったため、ソフトバンク社債に買換え)。
 - ・ 6 月 26 日、内閣府公益認定等委員会に、2012 年度 (2012 年 4 月 1 日~2013 年 3 月 31 日) の事業報告・決算を提出。
 - ・ 6 月 27 日、役員変更登記完了。
 - ・ 7 月 20 日、顧問弁護士依頼の打合せのため、坂上理事長、中島専務理事とトニカ法律事務所の栗林信介・飯田丘弁護士が面談。9 月 1 日付で、栗林信介弁護士と法律顧問契約を結んだ。
 - ・ 7 月 21 日~8 月 9 日、会議室・講堂・川端康成記念室の内外壁防水補修工事。
 - ・ 7 月 24 日、官報号外第 160 号に決算公告を掲載。
 - ・ 8 月 2 日、廣野敦子 (廣野晴彦収集生田春月コレクション寄贈者)・田嶋純子氏から寄付 (2 万円)
 - ・ 8 月 20 日、婦人民主クラブ・佐多稲子研究会から寄付 (5 万円)
 - ・ 8 月 28 日、内閣府公益認定等委員会に役員変更届出。
 - ・ 9 月 4 日、中央公論新社・松室徹氏、瀧澤晶子氏が、谷崎潤一郎歿後 50 年記念事業への協力要請のために来館。
 - ・ 10 月 5 日、岩本久子氏から寄付 (1 万円)
 - ・ 10 月 8 日、共同展示「3. 11 文学館からのメッセージ」展の費用として匿名の寄付 (70 万円)
 - ・ 10 月 31 日、有吉玉青氏から寄付 (2 万円)
 - ・ 11 月 8 日、故高橋たか子氏から高橋和巳・高橋たか子両氏の著作権の遺贈を受ける。
 - ・ 11 月 14 日、犬田かほる氏から寄付 (30 万円)
 - ・ 11 月 20 日、石橋財団から寄付 (「声のライブラリー」製作費 4 回分 190 万円、石橋財団「声のライブラリー」コレクションの公開費用 80 万円)
 - ・ 12 月 10 日、理事長が年末の挨拶のため石橋財団を訪問。
 - ・ 1 月 9 日、山崎敏晴氏寄贈の東新資料について、北海道新聞の取材を受ける (中島国彦理事が対応、1 月 27 日朝刊に記事掲載)。
 - ・ 1 月 30 日、内閣府公益認定等委員会に 2012 年度公益目的事業会計の剰余金 12, 011, 684 円の扱いについて相談 (事務局長、木村文幸税理士、田近裕人氏)。2 月 4 日、2014 年度予算で、公益目的保有財産のうちその他固有資産の電動式集密書架の修繕費用 14, 397, 580 円に充て

る旨、修正提出書を提出。

- ・2月1日、2013年1月～12月に維持会・友の会はじめ寄付をくださった方々に確定申告用の税額控除申請書類と案内を送付。
- ・2月14日、企画展示「青春の詩歌」展の費用として匿名の寄付（120万円）
- ・2月18日、保有債券の一部を入れ換え（本年4月23日満期償還のラボバンクネダーランド債700,000Aドル億円を三井住友信託銀行社債に買換え）。
- ・3月31日、大木志門退職。

◇逝去された方

- ・7月12日、高橋たか子氏（高橋和巳文庫寄贈者、高橋和巳・高橋たか子基金寄付者）
- ・10月2日、秋山駿氏（1991年6月～2009年3月評議員、2009年3月～2011年5月監事）
- ・11月25日、辻井喬氏（1985年3月～1993年6月評議員、1993年6月～2001年6月理事、2001年6月～2011年5月常務理事）
- ・12月21日、渡辺一民氏（1985年10月～2011年5月評議員、2011年6月～運営審議会委員）

<主な寄贈>

- 4/4 竹内栄美子氏を通して宮崎とし子氏から、中野重治「平和革命」と文化ということ」（「文化革命」昭和22・9掲載）原稿と、宮崎氏の姉・柴川のお歌集『青縹』。中野原稿はのおの夫で「文化革命」の編集者だったジャーナリスト柴川^{わたる} 濟 旧蔵。
- 4/6 金野文彦氏から山田清三郎の細田源吉宛はがき4通（昭和14～16）。
- 4/9 上田雅由氏から高浜虚子（推定）ほか「ホトトギス」同人による俳句額。
- 4/17 小泉浩一郎氏から御著書『森鷗外の世界像』（翰林書房）。
- 5/10、5/15、5/29、6/1 浅海正彦氏から詩集など計31冊。
- 5/21 木村一信氏から『編集復刻 小野佐世男ジャワ従軍画譜』（小野耕世・木村一信編、龍溪書舎）。
- 5/29 山崎敏晴氏（中谷宇吉郎研究者）を通して、故・東晃氏（中谷宇吉郎門下、元北大教授）令嬢の東眞理子・東恵美子氏から中勘助の東新苑献呈本（『菩提樹の蔭』『しづかな流』）。
* 東晃氏は漱石門下の東新子息。
- 6/18 柿崎武生（故田中修氏〈美術評論家、本名・柿崎良三〉夫人）から、田中修旧蔵の武者小路実篤、尾崎士郎、草野心平、深田久弥、今官一ら15氏29編の原稿、草野心平宛高村光太郎はがき、草野心平写真。原稿は昭和30年代「帝都日日新聞」（野依秀市経営）掲載作を多く含む。
- 6/27 川上美那子氏を通して橋本綱 氏（都立大学名誉教授、故橋本佳息女）から、橋本佳旧蔵の岩野泡鳴著『悲劇 魂迷月中刃 一名、桂吾良』（女学雑誌社 明治27）。
- 7/18 日本古書通信社から、稲村徹元、岡野他家夫、木村毅、郡司正勝、古家実三ほかの「日本古書通信」掲載原稿295点。
- 7/19 前田徹生氏から雑誌「若葉」主に欠号分152冊、「岬」1冊。
- 7/23 前澤明氏から故前澤落葉女・前澤光一郎氏旧蔵の「富士」（昭和32～43）など俳句誌162

- 冊、日野草城著『草城句集』（京鹿子発行所 昭和3）など図書24冊。
- 8/7 故・高橋たか子氏から晩年の蔵書393冊（自著を含む和書・洋書）。「高橋たか子文庫」として整理。
- 8/10 匿名希望の個人から夏目漱石「子規の画」原稿9枚。
- 8/15 桜木紫乃氏から、第149回直木賞受賞作『ホテルローヤル』より「シャッターチャンス」冒頭浄書原稿1枚。
- 8/20 吉條久友氏から、谷崎潤一郎の森川喜助宛封封書（昭和6～11頃）、森田松子、谷崎丁未子の森川宛封封書（昭和9）各1通ほか。
- 9/12 藤野可織氏から第149回芥川賞受賞作「爪と目」冒頭浄書原稿1枚。
- 10/3、11/13、11/26 澤木くみ子氏（沢木欣一・細見綾子夫妻長男の故・澤木太郎氏夫人）から、夫妻の日記・手帖、欣一原稿・講義ノート、山口誓子書「風木舎」扁額、松瀬青々、山口青邨らの筆墨、旧蔵書の一部など。
- 10/22 久泉迪雄氏から『歌集夕映』（氏筆耕の謄写版第一歌集 昭和31）ほか3冊。
- 11/14 北条常久氏の仲介で、犬田章氏（犬田卯・住井すゑ長男）から、「橋のない川」ほか住井すゑ原稿・筆墨・遺品、犬田卯日記・原稿・宛書簡、旧蔵書の一部、雑誌「部落」など。犬田卯・住井すゑ文庫として保存する。
- 11/19 楠山三香男氏（楠山正雄令息）から、正雄の日記・講義ノート計5冊、坪田譲治「私の受けた幼児教育」と佐藤愛子「教訓何もなし」原稿ほか。
- 11/22 宮崎慧子氏（元NHK勤務）から尾崎喜八色紙（詩「日川溪谷」）。
- 12/4 藤澤玲子氏から、「詩聖」「日本詩人」などに詩作を発表した松村久子（明治33～昭和6）の遺作ファイル2冊（『遺稿詩集松村久子』（私家版）収録作、関連資料）。
- 12/6、12/7 北条常久氏、内藤由直氏（龍谷大学）を通して部落問題研究所から「部落問題研究」「部落」「人権と部落問題」（館欠号分）計133冊。
- 12/13 山崎敏晴氏を通して東眞理子・東恵美子氏から、中勘助著『沼のほとり』（東新旧蔵）、東新宛送り状はがき。
- 12/17 浅海正彦氏から、金子光晴著『花とあきビン』（青娥書房 昭和48）など詩集4冊。
- 12/21 十川信介氏から、二葉亭四迷書簡（本多直次郎宛、明治40年10月20日）1通と辻邦生ほかの同氏宛書簡、中村光夫原稿など計13点。
- <2014年>
- 1/9 山崎敏晴氏から東新宛書簡（小宮豊隆、鈴木三重吉、安倍能成、森田草平、斎藤茂吉など）312通。
- 1/10 松木明知氏から、松木明著『津軽語彙』覆刻版（津軽書房 2010）21冊。
- 1/14 北条常久氏から、住井すゑ遺愛の着物と著書『橋のない川 住井すゑの生涯』（風濤社 2003）。
- 1/18 松本徹氏から、『徳田秋聲』（笠間書院 昭和63）など著書9冊と雑誌「三島由紀夫研究」「季刊文科」計11冊。
- 2/4、2/22 中村稔氏から詩稿「夜」、「建屋のある風景」。

- 2/25 中村稔氏から、石原八束、大岡昇平、大西民子、金子兜太、沢木欣一、塚本邦雄、永田耕衣、三好達治の色紙・短冊計9点。
- 2/25 加藤穂高氏（加藤楸邨長男）から、加藤楸邨書軸「焦土詠二句」、中村草田男・石田波郷・加藤楸邨寄書き書軸、その他楸邨夫妻の書、遺品など計23点。
- 2/26 中村稔氏から詩稿（紙本）「建屋のある風景」。
- 3/11 上林逸子、岡田史子、下島泉氏（下島勲令息夫人・故下島友子氏の令嬢、令息）から、下島勲日記4冊、室生犀星ほかの宛書簡、主に下島勲の書多数、井上井月関係資料（短冊など）。
- 3/14 根村亮氏（丸谷才一長男）から丸谷才一コレクション追加資料。朝日賞ブロンズ・文化勲章など受賞関係資料、谷崎松子ほか色紙、石川淳原稿、図書約20冊。
- 3/15 加藤穂高氏から、加藤楸邨・大岡信連句パネル・額計13点。
- 3/20 加藤忍氏（加藤楸邨四男）から、楸邨色紙「雉子の目のかうかうとして売られけり」。
- 3/21 大岡信氏から書額「丘のうなじ」ほか1点。
- 3/26 日本文学振興会を通じて、文藝春秋芥川賞・直木賞150記念イベントのための受賞作浄書原稿35点（寄贈者は各受賞作家）。

<寄託>

- 2/8 秋山大輔氏 家永三郎、北杜夫、河盛好蔵書簡計3通。
- 2/25 中村稔氏 与謝野晶子、斎藤茂吉、石田波郷の短冊額、安東次男色紙、計4点。

<購入>

- 7/10 明治古典会七夕古書大入札会にて、「関西滑稽新聞」（大正6～13）合本2冊。

<2014年>

- 3/19 谷崎潤一郎、松子書簡 布施信良(医師, 1889-1985)宛計26通、斎藤茂吉「太田水穂を駁撃す」原稿（昭和5.5～9「アララギ」掲載）。

<出品等協力>

- ・ 仙台文学館「正岡子規みちのくの旅～はて知らずの記」展(4/20～6/9)に正岡子規遺品硯 河東碧梧桐箱書。
- ・ 鎌倉文学館「太宰治 VS 津島修治」展(4/27～7/7)に太宰治「人間失格」「斜陽」「グッド・バイ」「右大臣実朝」他原稿9点、初出誌8点。
- ・ 徳島県立文学書道館「寂聴 美は乱調にあり」展(4/27～6/9)に大杉栄「死灰の中から」原稿、師岡千代子宛幸徳秋水書簡、江口渙宛堺利彦書簡。
- ・ 鎌倉文学館「太宰治 VS 津島修治」展(4/27～7/7)追加出品、太宰治『晩年』初版本(中村地平宛献辞入)。
- ・ 神奈川近代文学館『『中原中也の手紙』展—安原喜弘へ—(6/15～8/4)に「女性日本」1冊。
- ・ 所沢航空発祥記念館「堀越二郎の生涯」展(6/22～9/1)に「飛行少年」「飛行日本」各1冊。
- ・ 鹿沼市立川上澄生美術館「川上澄生の平峯劉吉時代」展(7/13～8/29)に「文章世界」「秀才

文壇」。

- ・ 石川近代文学館「中野重治展」(9/14～11/24)に「半日」筆写、「暗夜行路雑談」原稿、佐藤武雄のデスマスク、画帖より2点。
- ・ 大阪市立歴史博物館「生誕100年記念 織田作之助と大大阪」展(9/25～10/18)に輪島昭子氏寄贈資料12点(原稿1点、書簡等1点、絵画1点、遺品4点・映画台本等印刷物2点など)。
- ・ 山梨県立文学館「与謝野晶子展」(9/28～11/24)に新詩社番付表、みだれ髪かるた、晶子着物他書簡、原稿、雑誌など30点。
- ・ 柏崎ふるさと人物館「本の配達人―品川力とその弟妹―」展(10/5～11/24)に寄書帖「ちぎれ雲」、品川力宛吉野秀雄はがき。
- ・ 鎌倉文学館「堀辰雄展」(10/12～11/24)に堀辰雄原稿「病」、書籍・雑誌等18点。
- ・ 明治学院大学 日本近代音楽館／オペラシティ「五線譜に描いた夢 ―日本近代音楽の150年」展(10/11～12/23)に上田敏『海潮音』、萩原朔太郎『青猫』。
- ・ 青森文学館「大町桂月展」(10/12～11/24)に大町桂月原稿「陸奥の海岸線」、雑誌1点。
- ・ 前橋文学館「萩原朔太郎詩壇登場100年展」(10/26～12/8)に朔太郎自筆歌集「ソライロノハナ」。
- ・ 兵庫県立美術館に「昭和モダン 絵画と文学1926-1936」(1/2～12/29)に速水豊図書6点。
- ・ 東京大学駒場博物館「ダンヌンツィオに夢中だった頃」(10/19～12/1)に有島武郎・生馬絵葉書(武宛、明治39.11.14)『死の勝利』『煤煙』。
- ・ 横須賀美術館・小杉放菴記念日光美術館「「槐多の歌へる」その後 山崎省三・村山槐多とその時代」展(11/16～12/23、1/1～2/16)に村山槐太「大島の水汲み女」。
- ・ 台東区立一葉記念館「樋口一葉の棲家」展(10/1～12/25)に「うもれ木」原稿・雑記、平田禿木封書。
- ・ 町田市民文学館ことばらんど「遠藤周作『侍』展―“人生の同伴者”に出会うとき」展(2014/1/18～3/23)に遠藤周作安岡章太郎宛書簡、「オール読物」。
- ・ 川内まごころ文学館「有島三兄弟展(10周年記念)」2/1～3/20)展に、有島生馬宛書簡、里見弴短冊他19点。
- ・ 神奈川近代文学館「生誕105年 太宰治展」(4/5～5/25)に「人間失格」ほか原稿、ノート、雑誌など64点。
- ・ 山梨県立文学館「村岡花子展 ことばの虹を架ける～山梨からアンの世界へ～」(4/12～6/29)に、佐佐木信綱宛書簡など13点。

<見学等> (とくに注記がない場合は、展示・書庫など全般的に案内)

- ・ 4月23日、武蔵野大学、学生9名。
- ・ 5月18日、豊島区千早図書館市民サークル、20名(展示解説)。
- ・ 5月22日、神奈川県庁県民部文化課、深井康信副課長など3名。
- ・ 5月28日、福井県教育庁生涯学習・文化財課、山元清隆課長(福井県ゆかり作家資料調査)。
- ・ 6月4日、大東文化大学 宮瀧交二先生引率市民グループ20名(展示解説)
- ・ 6月7日、加須市立加須図書館読書会 30名(展示解説)

- ・6月29日、黒井千次氏の紹介により、ピーター・ティラック氏（モンタナ州立大学近代言語文学科）
- ・7月4日、宮城県仙台第一高校 生徒8名
- ・7月12日、日本大学文理学部1年生 1名（専門図書館と一般図書館の違いについてのレポート作成のため、見学と業務内容の説明）
- ・7月16日、福井県教育庁：林雅則氏、生涯学習文化財課参事：山川満寛氏（資料調査と見学）
- ・7月23日、鷗友学園女子中学校、教諭1名と生と図書委員の生徒7名
- ・9月12日、皇學館大學文学部国文学科、岡野裕行氏と司書課程の学生14名
- ・9月28日、学習院大学、博物館学芸員課程の学生12名
- ・10月17・18日、帯広三条高校 生徒9名
- ・11月7日、埼玉県富士見市NPO法人市民大学20名（展示解説）
- ・12月4日、広島県安佐北高校 生徒2名
- ・1月17日、都立若葉総合高校 生徒14名
- ・3月12日、楽々ウォーキングの会 28名（展示解説）

<講堂・会議室等の利用>

- ・4月13日 新会議室 日本の伝統文化を知る会（ビューティーバー）
- ・5月25日 講堂 芥川龍之介作品朗読会（赤坂朗読集団「風」）
- ・6月29日 講堂 穂村弘・平野紗季子対談（BUNDAN）
- ・6月29日 講堂 同人作品を読む会（短歌結社「まひる野」）
- ・7月30日 講堂 伊藤左千夫没後百年「野菊の墓」朗読会（ふみよみ書房）
- ・8月17日 講堂 久谷雉講演会（トルタ）
- ・9月7日 新会議室 村上春樹を読む会
- ・10月12日 講堂 倉本美津留・本秀康対談（BUNDAN）
- ・12月7日 新会議室 リーディングライブ控室（BUNDAN）
- ・12月18日 講堂 私立大学キャンパスシステム研究会（富士通）
- ・12月21日 講堂 文学サロン「立原道造から現代詩へ」（譚詩舎）
- ・1月25日 新会議室 同人作品を読む会（短歌結社「まひる野」）
- ・3月21日 新会議室 有山先生を囲む会
- ・毎月第1土曜日 講堂 文の会
- ・奇数月第3土曜日 新会議室 アメリカン・ジョークを楽しむ会

* * * * *

第50回夏の文学教室「時代にみる文学」

（7月29日～8月3日、午後1時～4時20分、よみうりホール、後援・読売新聞社）

29（月） 坪内祐三 明治20年

古井由吉 漱石の語り口

- 伊藤比呂美 鷗外とわたし
- 30 (火) ロバート キャンベル 銀座のくすんだ色
川上未映子・蜂飼耳 (対談)
詩の、みえかくれするところ～たとえば中也、賢治、朔太郎
- 31 (水) 大村彦次郎 文士のゆくえ
町田 康 「あやとりの記」をめぐって
荒川洋治 高見順の世界
- 1 (木) 藤田宜永 新感覚と日本的詩情—川端康成「浅草紅団」を中心に
平野啓一郎 痴人たちは、何を以て愛するのか？
川本三郎 日本最初の女性ミステリ作家、翻訳家、松本恵子のこと。
- 2 (金) 島田雅彦 ブンガクの未来形
堀江敏幸 退かずに距離を取る—長谷川四郎について
高橋源一郎 昭和の文学、平成の文学、そして…
- 3 (土) 吉増剛造 吉本隆明『日時計篇』原稿を読む
北村 薫 複製本の伝えるもの
津島佑子 未来という時間のために—小説の可能性